

## 6. 東北日本にも線状降水帯が起きたこと

2022年8月3日青森秋田両県に1時間に110mmというものすごい豪雨があり、線状降水帯が発生しました。これまでは、西日本に発生しやすいと思ってばかりいたので驚きました。この降水のメカニズムは、暖かく湿った空気が続々と流入し、山や前線などで持ち上げられた空気が上昇して雲ができるというのが始まりです。大気が不安定になる中で、雨を降らせる積乱雲が次々と発達して、上空の風の影響で雲が並び長い列ができるものです。その規模は長さが50~300km、幅が20~50kmといわれています。そのために大量の雨が同じエリアに長時間にわたって降り続くこととなります。これによって、川の氾濫、内水氾濫、土砂災害といったことが起きます。

特に注意しなければならないのは、鉄道、情報、電気といったインフラ関係のマヒが起きることで、過去の災害でもありました。大切なことは、降雨の中での避難は無理せずに、家の中のより安全なところに移動することを考えておくことも重要で、状況によっては無理して外へ出るのは危険なのでやめることも選択肢に入れておくことです。まずは正確な情報を確認して、居場所を明確にして救助を待つということが望ましいと思います。畑や田んぼ、川などを見に行くことは絶対避けてほしいことです。加えて、地下は降雨水が流入する危険性もあるので、避難は2階以上、がけから離れて避難するようにすることが大切です。

とくに、土石流やがけ崩れは降雨が止んでから起きることも多く、しばらくの間注意すべきものです。がけ崩れは、降雨のさなかにも発生しますが、潜在的なものは時間が経過してから起きることが少なくなく、通行中の車の事故につながります。道路などに小石が流れ出しているところなどは要注意箇所になります。したがって、夜間や地震の直後などの通行は避けけたほうがよいでしょう。線状降水帯のための特別な避難はありませんが、的確な情報を入手するようにして、できるだけ早期の避難を試みるのが大事です。そして被害があると、広域にわたることで復旧に時間もかかりますし、特に暑いさなかでは衛生上の問題も出てきます。復旧に当たっては、地域単位で実施することが望ましく日頃のコミュニティが効いてきます。

今後も、この線状降水帯による豪雨災害が常習化することに備えておく必要があり、避難所、避難ルート、情報伝達などに関して地域として情報を共有しておく必要があります。そして、特に電気障害などはすべてに影響することであり、地域でリスクを周知して直前の備えなどについても話し合いをしておく必要があると思います。2022年8月の豪雨は、子供たちの夏休みの中でしたので、その観点からの課題や問題点がなかったかどうかを検証して、今後に備えなければなりません。